

社会的課題「調べる」能力向上 鹿児島でNIE学会

新聞で学ぼう



また、同大の原田義則准教授は表現力の育成・効果を検証。生徒たちは取材したことや調べたことをまとめる「新聞作り」を通して「新聞活用の良さに気づいたようだ」と、NIEの効果を強調した。

同大大学院の溝口和宏教授は「1つの記事だけを読んでも、社会的課題の全体が分かっていない生徒が多い」と指摘。複数の記事を読み解くNIE授業を行った鹿児島県薩摩川内市の中学校を調査した結果として、「問題を生む社会状況を具体的に調べようとする生徒の割合が増加した」と報告した。

鹿児島大の田口紘子准教授は、記事の見出しについてのNIEを進めるうちに「小学生たちは、楽しんでいろいろな見出しを付けられるようになった」と報告。今後の課題として「正解のない見出しをどのように評価し、指導をしていくべきか」とした。

この日はシンポジウムがあり、NIEを通してどのような資質・能力を育むことができたのかを調査した研究成果の発表があった。

学校で授業で新聞を活用するNIE（教育に新聞を）に関する研究成果を話し合う日本NIE学会が24日、鹿児島大学（鹿児島市）で始まった。今回のテーマは「資質・能力の育成とNIE」。25日まで研究者や教育関係者が意見を交わす。



大勢の教育関係者らが参加した日本NIE学会＝24日午後、鹿児島市（藤浦淳撮影）